

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長、広報部主任
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、
広報部主任 各学年主任 計11名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者1名、教育関係者2名、近隣中学校長、地域住民代表、同窓会代表、
後援会代表、保護者代表、必要に応じて校長が指名する者 計10名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 紙上開催 令和 2年 6月13日（土） 内部委員3名、協議委員10名	・臨時休校期間中の教育活動の概要 ・分散登校開始後の教育活動の概要 ・学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・紙上開催の方法 ・評価委員選出
第2回 紙上開催 令和 2年11月21日（土） 内部委員3名、協議委員 9名	・時差登校期間中の教育活動の概況報告 ・生徒実態調査の報告 ・紙上開催の方法
第3回 オンライン開催 令和 3年 2月13日（土） 内部委員3名、協議委員 8名 (残り2名は郵便により意見聴取)	・学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・令和3年度入学者選抜（推薦選抜）の概況報告 ・Webアンケート調査結果に係る意見交換

(2) 評価委員会

第1回 令和 2年11月21日（土） 内部委員2名、協議委員2名	・学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和 3年 2月13日（土） 内部委員2名、協議委員2名	・学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動、ライフ・ワーク・バランスの推進

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

- ・実施時期： 令和元年11月下旬から令和2年1月上旬までの間
- ・対象・規模： 生徒・保護者 各877人、教職員61人、外部委員10名
- ・回答率： 生徒98%（859人）、保護者45%（391人）、
教職員85%（52人）外部委員100%（10名）

(3) 評価結果の概要

コロナ禍により教育活動が制限され、学校運営連絡協議会も紙上開催をせざるを得なかったため、教育活動の実態を把握しづらい、把握できなかったという意見が多く寄せられた。特に、学校行事や部活動に関しては、その大半が中止となったため、評価できないという意見が大半で合った。一

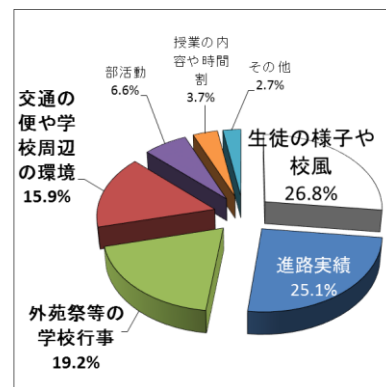
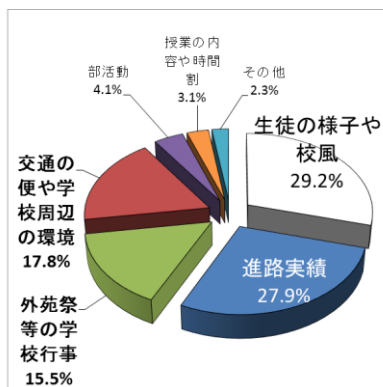
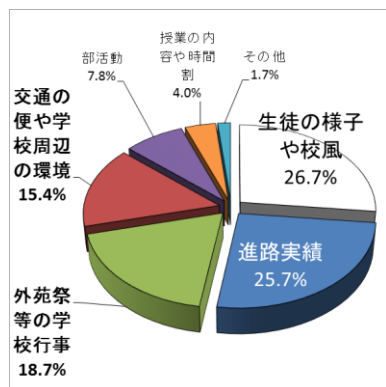
方、オンライン授業等のコロナ禍での対応については、概ね良好な評価を得ることができた。

(4) 協議会における主な意見

- ・配慮が必要な生徒に対する支援について、指導助言をする為に関わっている。何かあればいつでも相談に乗る。今後も連携していきたい。
- ・共通テストについて、以前のセンター試験とはパターンが変わった。弱気にならない受験が大事。
- ・コロナ禍にあって他人とのかかわりがなくなり精神的に不安になる学生が増えている。相談等についても、守秘義務を厳守し、学生との信頼関係を築くことが大切。
- ・事前準備と取組があったからこそ、コロナ禍にあって青高の教育活動が滞ることなくできている。青高のブランド化は重要。
- ・教職員・生徒・保護者の健康に留意して今後もやっていってほしい。
- ・コロナ禍の中、大変なご苦勞を感じている。地域も青山高校の取り組みに協力していく。
- ・学校訪問ではお世話になった。生徒たちは、とても楽しかったと感想を述べている。青山高校の生徒は、充実した学校生活を送っている。港区立の小中学校はタブレット端末を一人一台配布した。ジェンダーに配慮して、女子の制服で、ズボンの着用をし始めた。ブレザーを紺色に変えていく。
- ・機動性があり迅速に活動を行っている。今まで通りの目標で進められるとよい。
- ・卒業生が結束して、コロナ禍にある教員や生徒の支援を行ったのは青山高校ならではの姿である。
- ・Twitter で学校の様子がよくわかり、ありがたい。
- ・青高での経験が、生徒にとって貴重な経験になる。オンラインの環境・WiFi の環境が整い、学習環境が充実し、生徒の学ぶ様子がとても良いと思う。
- ・様々な面が見えた。スマホ等の使用の良し悪し、パワーバランスによる女子がかくあるべきであるとか、固定観念にとらわれない男女平等をよく理解した生徒に育ってもらいたい。

(5) 生徒による評価結果の分析・考察

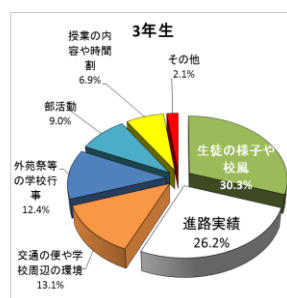
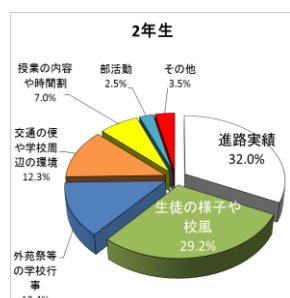
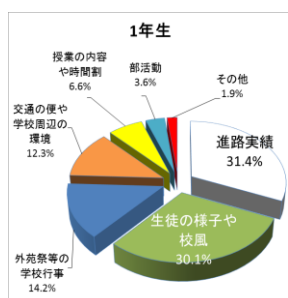
ア. 青山高校を志望する際に考慮した事柄は「生徒の様子や校風」「進路実績」が上位。



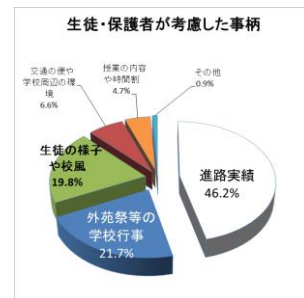
●保護者・教職員の認識

生徒・保護者の認識は概ね一致しているが、教職員の認識にはずれがある。特に、学校行事に対する認識は、過去5年間で縮小してきているものの、依然として過大に評価する傾向が残っている。

・保護者

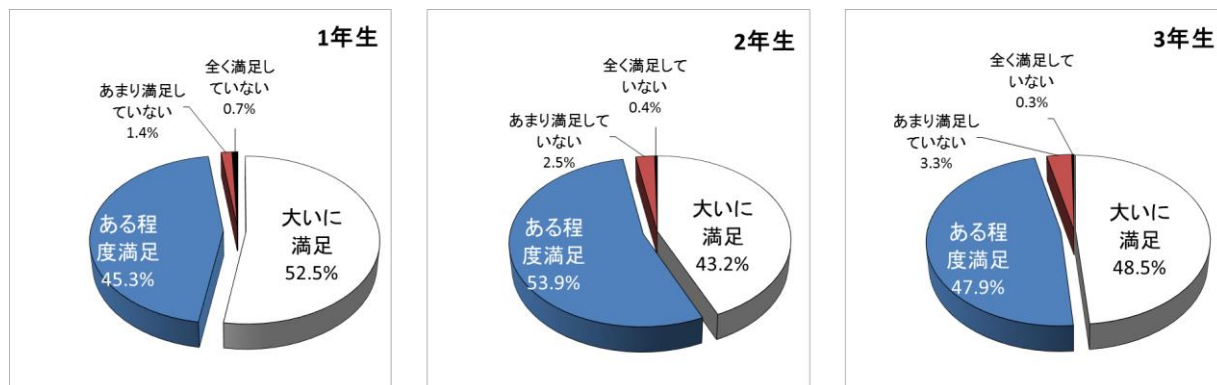


・教職員



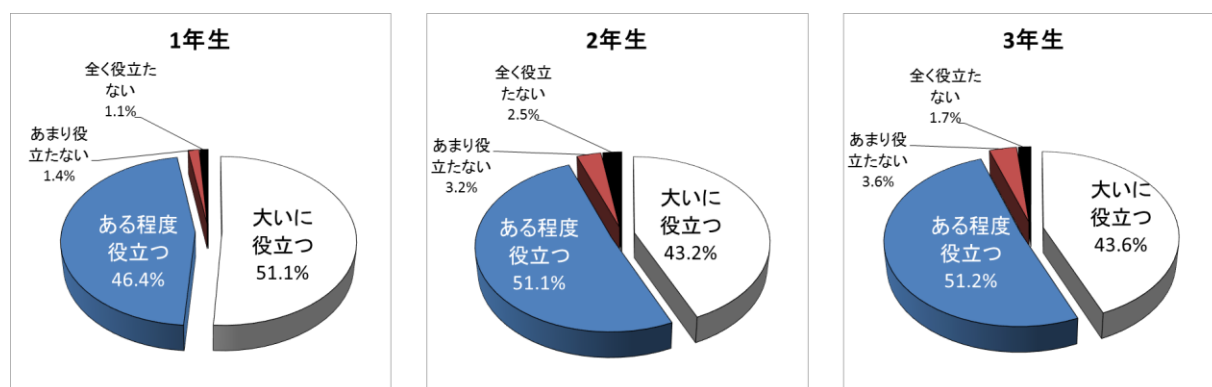
イ. 授業について

概ね肯定的だが、科目によっては厳しい意見も見られた。授業評価が活かされていないという悲痛なものもあった。



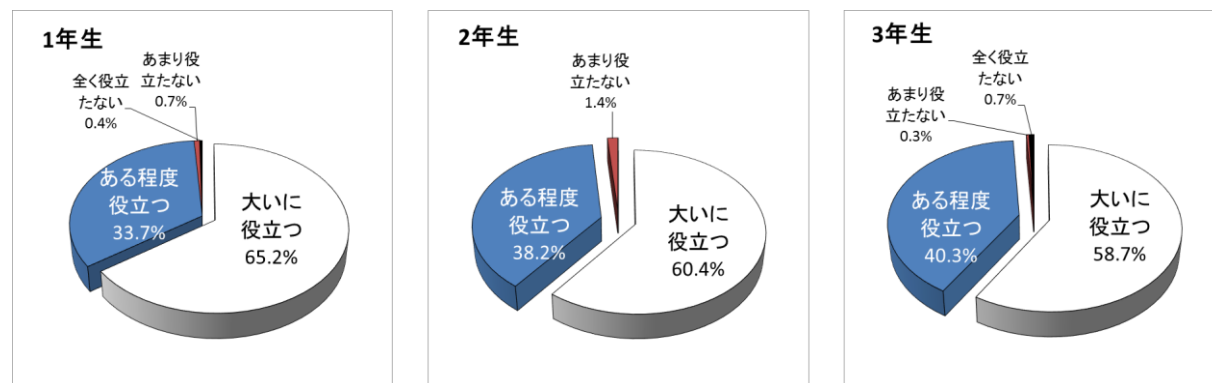
ウ. 学習のしおり（年間指導計画）について

学習到達目標を設定するようになって、生徒が有用度を感じる割合は飛躍的に高まった。



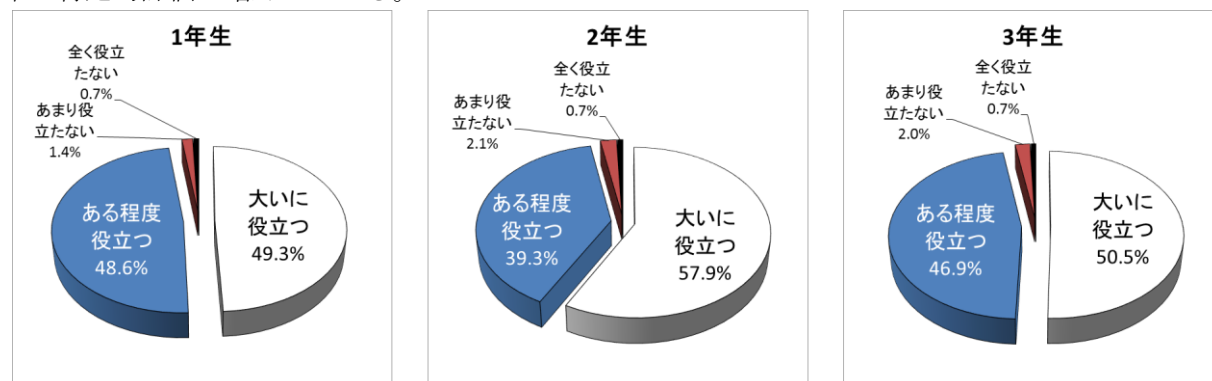
エ. 外部模試・校内学力テスト

進路指導全般が肯定的評価が大半であるが、中でも模試と学テに関する評価が高かった。特に、学テは、「作問力は指導力」のスローガンの下、記述問や新傾向の問題等を出題するようになったことが評価向上につながったものと考える。



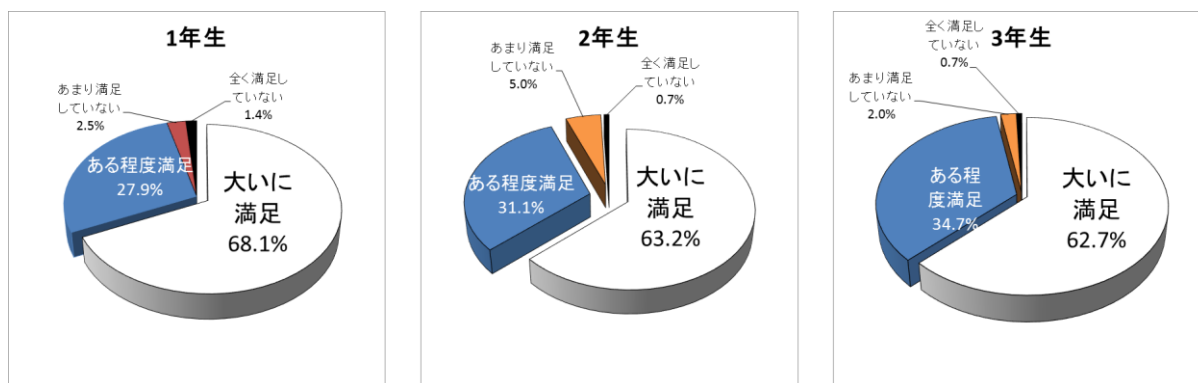
エ. 保健室の健康指導やケア

年々肯定的評価が増加している。



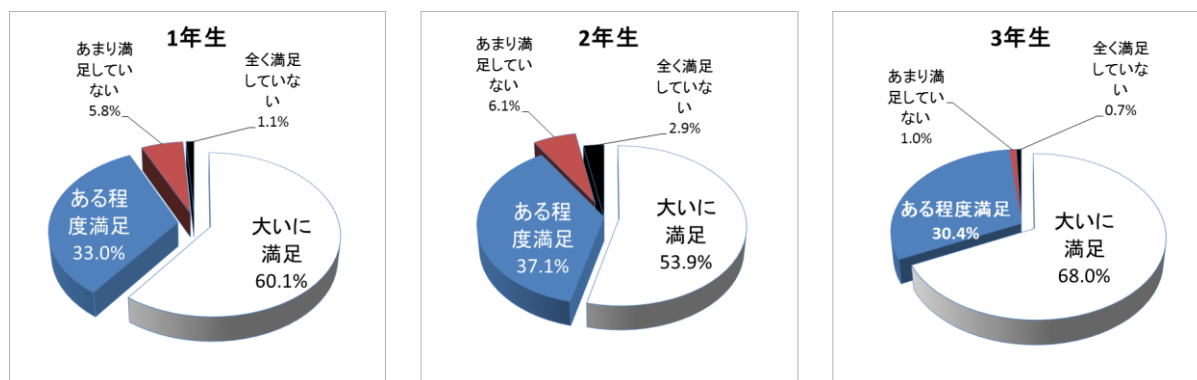
オ. 部活動

コロナ禍により活動が大きく制限されたにもかかわらず、高い満足度を示す結果になった。



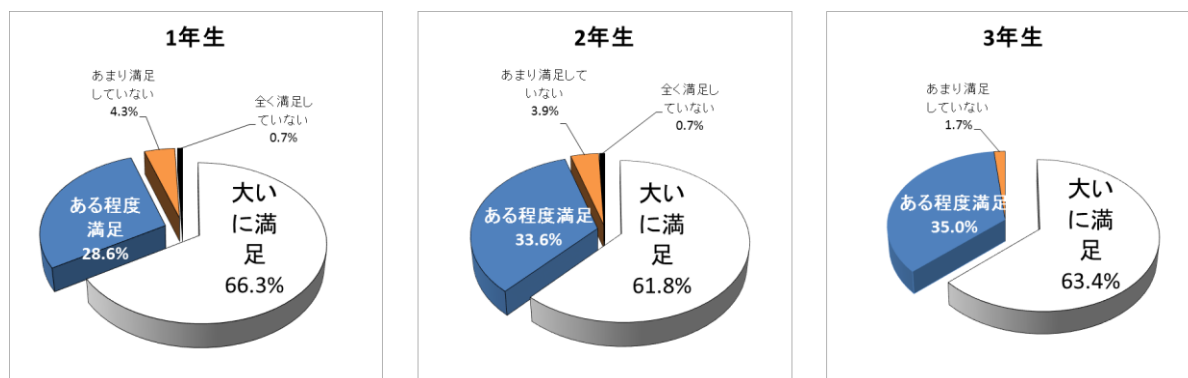
カ. 学校行事

部活動と同様、多くの行事が中止となる中でも高い評価が多かった。

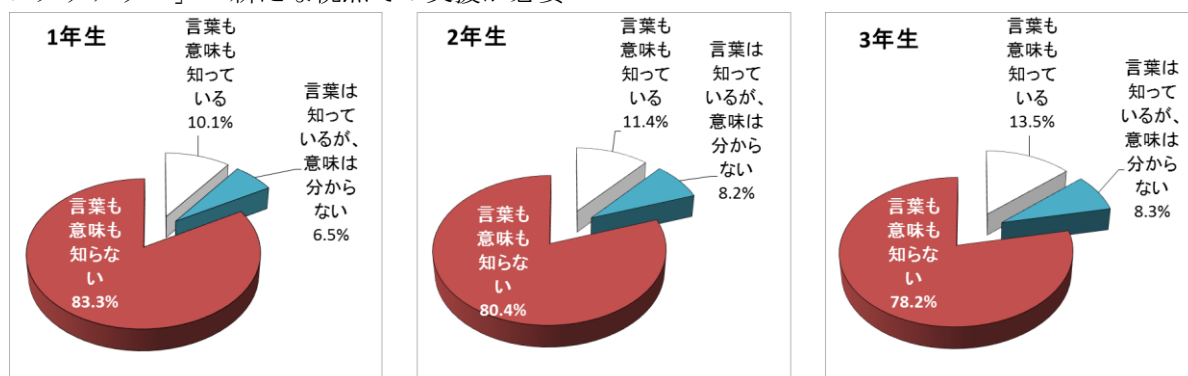


キ. その他

「パン販売」…満足度はそれなりに高いが、販売品目に課題



「ヤングケアラー」…新たな視点での支援が必要



4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

エビデンスに基づいた改革は着実に成果を挙げている。調査結果の全教職員での共有を出発点とし、引き続き課題の具体的な改善に向けて取り組んでいく。また、自由記述に見られる不満や要望、提案についても、優先順位を付けつつも、対応策を令和3年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

ア. 感染症の流行下での教育活動の工夫

イ. 生徒の心身の悩みの解決に資するよう、教育相談等の一層の充実

ウ. 特定の授業に関する質の向上

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) トイレ洋式化は完了。悪臭対策、照明 LED 化と自動水栓化等の教育環境の整備を一層推進する。

(2) 大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成、課題のある授業者への指導を計画的に実施していく。

(3) スクールカウンセラーや特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、いじめ対策委員会や特別支援委員会を定期的を開催するとともに、企画調整会議や学年会等において生徒情報を詳細に共有するなどして、いじめの未然防止や生徒の心身の健康の増進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 10名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	3	2	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議0回、企画調整会議0回

【成果】コロナ禍により実績がなかった。